

平成23年度研究成果展開事業 先端計測分析技術・機器開発プログラム について

平成23年6月29日

1. 平成23年度の運営基本方針について

国の事業仕分けにより、JSTの競争的資金制度の再編が行われ、産学イノベーション加速事業【先端計測分析技術・機器開発】は他の産学連携事業と統合され研究成果展開事業の下で一つのプログラムとして推進。また、予算は約7億円減の約42億円の縮減。

係る状況下において、開発を継続しつつ優れた成果を創出すとともに、新規課題の採択も必要不可欠。

このため、以下のことを実施。

(1) 継続課題については、進捗・評価等を踏まえて開発費を縮減

(2) 新規課題については、各タイプとも厳選して採択

(3) 知的創造プラットフォームの構築(新規)

(4) その他

2. 具体的措置

(1) 継続課題の推進について

継続課題については開発費を課題平均で約15%減の査定をした。

査定にあたっては、中間評価の結果等を踏まえ、優れた成果を挙げている課題や開発項目が散漫になっている課題等を考慮し、開発総括が査定幅のメリハリをつけて実施した。

(2) 新規課題の採択について

今回の応募件数は4タイプ合わせて267件(前年度240件、対前年度約1割増)であった。新規課題の選考にあたっては、評価委員会で厳選するが、予算の範囲内で出来るだけ採択数を確保したい(全タイプで十数課題程度、AP対応課題含む)。

なお、3月11日(金)に発生した「東日本大震災」を踏まえ、公募期間を約1ヶ月間延長済み。

(3) 知的創造プラットフォームの構築について(新規)

研究成果の社会還元機能について(新規)

「知的創造プラットフォーム」のうち、「開発成果(プロトタイプ機)の活用・普及促進」については、5月16日～6月17日に公募。

「共用」を促進するため、採択されたチームのプロトタイプ機の情報を紹介し、ユーザーの掘り起こし等ができるようなバーチャルなプラットフォーム(ポータルサイト)を新たに構築し、運用する。なお、本プラットフォームは適宜機能を追加していく予定。

社会的広報・ネットワーク機能について

(a) シーズとニーズの出会いの場の提供 (新規)

- ・ 計測分析機器の効果的・効率的な研究開発をめざして、最新の研究動向やニーズを把握するとともに、開発企業の戦略を理解するための場を形成する。
- ・ 本年度は、テーマを設定しクローズドワークショップ(研究開発者、企業、ユーザーが参加)を試行的に開催し、意見交換をする予定。

(b) 専門家・ユーザー等への成果普及活動

- ・ 経費をおさえつつ、より効果的な展示会(分析展2011 / 科学機器展2011、BioJapan等)に出展するとともに成果報告会もあわせて実施予定。
- ・ 各展示会については、JST産学連携事業と共同出展予定。
- ・ 学協会等との連携の観点から、日本分析化学会、日本物理学会等においてブース展示することを検討中。
- ・ 成果集を昨年度に引き続き作成し、展示会等で配布するとともに、ホームページに掲載。

(c) 企業とのマッチング推進

- ・ 昨年度に引き続き「新技術説明会」において、要素技術タイプの課題を中心に民間企業に技術紹介を予定。
- ・ 2011分析展等においても、開発企業を探している課題を紹介予定。

(d) 国民・社会一般への周知広報活動

- ・優れた成果を上げている課題については積極的にプレス発表を実施。
- ・専門家ではない社会人等の方へ、広く事業の内容を周知するため、昨年度に引き続き広報用DVDを作成し、本内容はサイエンスチャンネル(<http://sc-smn.jst.go.jp/>)で放映予定。
- ・JSTニュース(機関誌)において、本事業の成果等を適宜掲載する。
- ・事業ホームページ(<http://www.jst.go.jp/sentan/>)において、成果等の情報を適宜掲載。
- ・日本学会会議等との連携による科学コミュニケーションイベントの開催(参考資料)。

マネジメント機能について

(a) 開発課題の選定・評価・助言機能の見直し(新規)

- ・平成22年度に実施した「先端計測分析技術・機器開発あり方検討委員会」の議論を踏まえ、課題の選定等に係るマネジメントを効率化。具体的には、
 - 1)評価委員のメンバー交代(委員長の交代、多様な視点からの評価のため女性委員の追加と専門家の重点配置等)
 - 2)開発課題数を勘案し開発総括によるマネジメントのさらなる効率化を図る他、事業化推進顧問についてもあり方を含め見直し中。また、JST-POの活用も予定。

(b) 「研究成果展開事業」としての連携強化(新規)


- ・事業統合により、事務処理マニュアルや契約書の統一化につき検討中。

(4) その他

本年11月に事務所移転予定。

3. 今後のスケジュール(予定)

	平成23年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
開発課題の実施状況の把握	サイトビジットなどによる実施状況の把握、 展示会・公開シンポジウムの開催等											
開発実施計画書	分析展/科学機器展2011 (9/7-9) Bio Japan2010 (10/5-7) 公開シンポジウム (5/20) (新規課題)計画書作成、委託契約締結 (継続課題)計画書作成、委託契約締結											
公募・選考 (事前評価)	書類選考、面接選考等 H23採択課題公募 (H23.2月～5月) H24採択課題公募 (H24.2月～4月)											
事後評価 <H22終了> 32課題	書類査読・ヒアリング等											
中間評価 22課題予定 (要素15、機器4ソフト3)	書類査読・ヒアリング等											

 : 開発推進活動

 : 評価活動

[参考]

日本学術会議との共催による公開シンポジウム

(観る、測る、そして知る - 最先端計測・分析技術が拓く世界 -)

開催 日: 平成23年5月20日(金)

会 場: 日本学術会議 講堂

主 催: 日本学術会議・科学技術振興機構

来場者数: 200名程度

概 要: 日本学術会議 化学委員会 分析化学分科会との共催により、計測分析技術の重要性・有用性を広く周知するための講演会を実施した。対象は大学院生以上の科学技術の研究者・技術者としたが、個人や非専門家も多く来場した。国の最先端研究開発プロジェクトで計測分析に深く関わる研究リーダー3名(外村彰*、田中耕一、川合知二の各氏)、「はやぶさ」が持ち帰った「イトカワ」の試料分析を実施した、本事業の元チームリーダー(塚本尚義 北大教授)に加え、国が進める計測分析技術に係る政策につき、二瓶好正氏から講演がなされた。本行事は世界化学年関連行事であり、複数社から取材があった。

* 長我部信行氏が代行



研究成果展開事業（先端計測分析技術・機器開発プログラム）
平成23年度 公募結果について

●応募件数内訳

プログラム／開発領域				応募件数		
				件数	小計	合計
要素技術タイプ				183	183	183
機器開発タイプ	機器開発	領域特定型	【アクション・プラン対応領域】異相界面におけるパワー-現象解明のための計測技術	12	25	64
			【一般領域】従来の特性を進化させた高性能レーザーを用いた計測分析システム	6		
			【一般領域】物質・材料の3次元構造解析及び可視化計測	5		
			【応用領域】物質・材料の3次元構造解析及び可視化計測	2		
		領域非特定型	39	39		
ソフトウェア開発タイプ		ソフトウェア開発	8	10	10	
		プラットフォーム開発	2			
プロトタイプ実証・実用化タイプ				10	10	10
合計						267

【参考】昨年度の応募件数

要素技術タイプ：150件／機器開発タイプ：58件／ソフトウェア開発タイプ：17件
／プロトタイプ実証・実用化タイプ：15件

●チームリーダー所属機関別の応募件数内訳

機関	要素技術		機器開発		ソフトウェア		実証・実用化		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
大学	135	73.8	41	64.1	8	80.0	0	0	184	68.9
国立 [※])	99	54.1	34	53.1	7	70.0	0	0	140	52.4
公立	13	7.1	0	0	0	0	0	0	13	4.9
私立	23	12.6	7	10.9	1	10.0	0	0	31	11.6
独立行政法人	30	16.4	14	21.9	0	0	0	0	44	16.5
国立試験研究機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
公立試験研究機関	1	0.5	0	0	0	0	0	0	1	0.4
特殊法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
公益法人	4	2.2	1	1.6	0	0	0	0	5	1.9
民間企業	13	7.1	8	12.5	2	20.0	10	100	33	12.4
合計	183	100	64	100	10	100	10	100	267	100

※大学共同利用機関を含む